

平成26年4月4日

掛川市・袋井市病院企業団
企業長 名倉 英一 様

掛 川 市 議 会

中東遠総合医療センターの運営に係る要望書

貴職におかれましては、掛川市民ひいては、中東遠地域住民が質の高い医療を受けることのできる、病院の運営に日々ご尽力いただき、ここに敬意と感謝を申し上げます。

さて、中東遠総合医療センターの開院より早1年が経過しようとしております。

当医療センターは、平成20年に掛川市・袋井市新病院建設協議会により策定された「新病院基本構想」に基づき、多くの関係者のご尽力で建設され、中東遠地域の高度医療、2次救急医療、災害時医療の基幹病院として地域住民に大きな期待と安心を与えています。また、2つの自治体病院を統合しての新病院建設という全国にも例を見ないモデル病院が誕生しました。まさに、掛川・袋井両市民の誇りでもあります。

なお、開院時には慣れない環境での医療事務で少し混乱され、患者の多くから不満の声が寄せられました。が、病院関係者のご努力で落ち着いた状態であるとのこと、安堵致しております。

2月17日の企業団議会や3月13日の部門別行動計画成果発表会などを通じて、企業長初め医師や看護師、技師、職員のあらゆる方々が情熱を持ち本当に真剣に医療に取り組んでいることを伺い、嬉しさと感謝の念にかられました。

さて、掛川市議会では平成17年の新市誕生以来、議会に病院問題の特別委員会を設置し9年間にわたり議員・行政当局と一緒に調査研究をして参りました。

とりわけ平成25年度は「掛川市議会基本条例」が施行され、市民への議会報告会を実施する中で新病院の概要や基本理念、そして掛川市がすすめる健康医療日本一に向けた構想などを報告し、市民からも多くの意見を頂き、これらの意見をもとに、掛川市議会として全議員による「政策討論会」を開催し、掛川市議会としての意見を集約しましたので、ここに要望書として報告いたします。

中東遠総合医療センターがますます発展され中東遠地域住民の命の安全安心が一層充実されるよう願っております。

また掛川市議会では、地域医療の充実には、病院のみならず診療所や保健福祉施設、市民ボランティアや市民の支える力も極めて重要と考えており、今年度は「中東遠総合医療センター支援特別委員会」を設置し、さらなる調査研究で共に地域医療の充実に向け活動することをお約束させていただきます。

要 望 書

1. 経営全般

- (1) 1年間の実績、実態を踏まえた中長期の経営計画を早期に策定されたい。
- (2) 診療科別の状況を詳細に把握され、経営の細部にわたる検証をされたい。
- (3) 自己評価の検討組織や外部評価を受ける体制など、厳しい評価の中で健全経営を目指されたい。
- (4) 効率的経営を求め、委託業務などの評価や見直しを常時されたい。
- (5) 近隣市の同等病院との比較による自己評価、差別化戦略を展開されたい。

2. 医師・看護師の量と質の確保

- (1) 医師の充実が病院の盛衰を左右する。継続的に良質な医師を確保されたい。
- (2) 研修医の受入れに多くのご努力をされていると聞くが、明日の病院を担う新人医師の育成のためにも、病院を挙げての取り組みをされたい。
- (3) 7：1看護体制と質の充実をめざし、看護師の職場環境や精神衛生管理の充実をされたい。

3. 事務局体制の強化

- (1) 病院内での事務処理の円滑化、患者や市民からの苦情や要望への対応、両市当局との情報共有のための活動などキメ細かい対応をめざし適切な体制に強化されたい。
- (2) 開院から2～3年は体制を固める重要な時期のため、集中的な体制強化をされたい。
- (3) 経営に精通した職員を養成されたい。

4. 広報活動の強化

- (1) 多くのメディアを活用し、掛川袋井両市民はもとより中東遠地域住民へのPR広報を積極的にされたい。
- (2) 両市の広報紙も活用するなど、市民に病院の状況報告やPRをされたい。
- (3) 市民の信頼向上のための広報活動を積極的にされたい。

5. 情報交換の量と質のアップを

病院が市民に信頼され、誇りと働きがいある職場になってほしい。

市民も行政も議会も、正確なタイムリーな情報を求めている。病院事務局から情報の提供や意見交換の場を積極的に設けられたい。

6. 施設整備

- (1) 病院設計や建設に熟知した業者が入念に設計建設した施設であるが、開院以来多くの患者から苦情や提案をいただいているようだが、建設業者との厳しい折衝をされ、早期に苦情解決を図られたい。

(2)利用者（患者）目線で施設や運営システムを点検し、改善された施設とされたい。

7. 予防医療の推進役に

(1)医療市民講座はたいへん好評と聞いている。ぜひ、さらなるPRと内容充実をされたい。

(2)保健福祉部門と連携し、市民の予防医療のリード役を担っていただきたい。

8. 病診連携

(1)病院の理念・方針の徹底には、診療所との連携は不可欠である。

相互に信頼関係を強化され、市民（患者）への啓発やアドバイスも重要である。しっかりした連携や市民教育にも取り組まれたい。

(2)診療所の待合室などに病院のPR誌設置やポスター掲示などの検討をされたい。

9. その他

市民に、より親しまれるように、病院名の愛称の導入なども検討されたい。